

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11077	3	前期	選択	1	30
授業科目名 (英文)	解剖生理学演習 (Seminar in Anatomy and Physiology)				
担当教員名	高野 海哉				
授業の概要及び到達目標					
<p><b>【概要】</b> 1年次に開講した「体の仕組みと働きⅠ・Ⅱ」よりも、さらに高度な内容を学ぶ。身体のバイタルサイン測定や肺機能測定など生理学的な測定や観察、また、消化器官の解剖学的・組織学的な観察を通して、さらに深い解剖生理学的な内容を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> 解剖生理学に関する演習・実験・観察に積極的に参加することを通して、人体を科学的にとらえて人体に関する知識を主体的に身に付けることができる。 演習後に提出するレポート作成を通して、正常な身体の構造と機能を理解し、その知識を用いて、論理的に考察をすることができる。その際、各看護領域の知識や技術に関連させることができる。</p>					
準備学習等					
<p><b>【受講する準備（予習）：30分】</b>あらかじめ配布されるレジюмеで演習内容を確認する。1年生で履修した「体の仕組みと働きⅠ・Ⅱ」の内容を十分に理解して演習に臨むこと。</p> <p><b>【受講（演習）】</b>演習には積極的・意欲的に取り組むこと。</p> <p><b>【受講後の復習：60分以上】</b>演習内容に沿って受講者各自でレポートを作成する。レポート作成に必要な解剖生理学的知識は、各自で参考文献をあたるなど、自主的、意欲的に取り組みこと。</p>					
成績評価の方法	レポート：100%				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配布するレジюме</li> <li>・ 1年生で履修した「体の仕組みと働きⅠ・Ⅱ」の講義テキスト</li> <li>・ (基本を学ぶ看護シリーズ) 2. からだの仕組みと働きを知る (高野海哉・川岸久太郎・草間朋子 著：東京化学同人)</li> </ul>				
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「系統看護学講座 専門基礎① 解剖生理学」 (坂井建雄ほか著 医学書院) ※</li> <li>・ 「ナーシンググラフィカ① 解剖生理学」 (林正健二編 メディカ出版) ※</li> <li>・ 「ロス&amp;ウィルソン 解剖生理学」 (島田達生ほか監訳 西村書店) ※</li> <li>・ 「ヒューマンボディ 原著第3版」 (片桐康雄ほか監訳 エルゼビアジャパン) ※</li> <li>・ 「臨床につながる解剖学イラストレイテッド」 (松村譲児 著：羊土社) ※</li> <li>・ 「人体の構造と機能 (第3版)」 (佐藤昭夫ほか著：医歯薬出版) ※</li> </ul>				

備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は「体の仕組みと働きⅠ・Ⅱ」の補講的な内容ではないことに留意する。本科目は選択科目であり、必修科目として設定されている解剖生理学的な知識よりもさらに内容を深める科目である。</li> <li>・欠席した場合の補習は行わない。欠席せずに毎回出席すること。</li> <li>・オフィスアワーについては、履修案内「オフィスアワー」の項目を参照のこと。</li> <li>・メール (k-takano@thcu.ac.jp) でいつでも質問などには対応します。</li> <li>・提出されたレポートは添削後返却する。内容が不十分な場合は、修正したうえで再提出を求める場合がある。</li> </ul>
授 業 計 画	
第 1 回	本科目のガイダンス 基本的な解剖学・生理学の知識確認
第 2 回	§ 1 人体の構造に関する演習① 骨格標本・骨格交連模型・関節模型を用いる。 標本や模型の観察やスケッチを通して、人体構造の特徴について理解する。
第 3 回	
第 4 回	
第 5 回	
第 6 回	
第 7 回	・脈拍の触知（特に頸動脈の触知に熟練する） （・心電図 波形と心音・脈拍との同調） ・血圧
第 8 回	§ 2 バイタルサインに関する演習② 呼吸器系 ・酸素飽和度 パルスオキシメーターの特性 身体状況による酸素飽和度の変化
第 9 回	・スパイロメーターによる肺機能測定 通常の測定体位（立位・座位）における測定 →性別・身長の違いによる比較 うずくまった状態・仰臥位・伏臥位にける測定
第 10 回	§ 2 バイタルサインに関する演習③ 循環器系と呼吸器系の連関 運動負荷（例：エルゴメーター）
第 11 回	息止め 酸素飽和度・脈拍・血圧の変化を捉える。 （負荷前→負荷直後→負荷後 5 分→負荷後 1 0 分→負荷後 1 5 分）
第 12 回	§ 3 消化器系に関する演習 腸音の聴取

第 13 回	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 空腹時の腸音</li><li>・ 水、流動食、固形物それぞれの摂取した後の腸音</li></ul>
第 14 回	演習（呼吸器系の演習、循環器系と呼吸器系の連関、消化器系の演習）の 3 題について、レポートを発表する。
第 15 回	まとめ